

美術科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 元山 愛梨

1 対象・日時 1年A組 令和4年2月18日(金) 2校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <p>知形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることなどを理解している。</p> <p>技材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表したり、材料や用具の特性などから制作の順序などを考えたりしながら、見通しをもって表している。</p> | <p>発対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして想像したことを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p> | <p>態表美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

3 題材「イメージアニメーション～これが〇〇だったらおもしろい!～」について

豊かに想像するためには、イメージする力が重要となる。自分なりのイメージを豊かに膨らませるためには、自己とそのものの関係性について一方向からだけではなく、様々な視点から捉え、そのものの本質に迫ることが必要となる。表現活動の喜びは、自分なりの発想や構想を生み出すことができたときに強く感じるものであるため、自分なりにそのものの本質に迫ることで、自分独自の発想を生み出せるようにし、表現活動の喜びを味わわせたい。

本題材では、身近なものを様々な視点から見て、そのものの形や色彩の特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして想像したことなどを基に主題を生み出し、アニメーションを制作するを通して、一人一人が自分なりにそのものの本質について考えられる機会としたい。

アニメーションの編集については、一人一台の TPC で行い、Stream に作品をアップロードする。評価については、技能よりも発想に重きを置くこととする。

4 生徒の学びの履歴

これまでの題材で、生徒はお気に入りの文房具をスケッチしたり、校庭から気になる石を拾ってきて粘土で表現したりした経験がある。その中で生徒は、「ものの見え方は全員同じなのだろうか」ということについて考えてきた。生徒からは、「見えているものは同じでも、思っていることは違うのではないか」とか「一人一人注目する部分が違うから、見え方は違うのではないか」といった意見があがり、抽象的な思考へと考えを広げている様子が伺えた。本題材では、ものの形や色彩の特徴などから想像を膨らませてアニメーションで表現するを通して、自分なりにそのものの本質を考えさせることにより、発想することの楽しさを味わわせ、2年次からの感情や目に見えないものなどから発想を膨らませる際にも自分なりの表現を追究できるようになることを期待している。

5 資質・能力育成のプロセス（8時間扱い）

| 次 | 時 | 評価規準（想定する「Bと判断する状況」） （丸番号は、2の評価規準の番号） | 【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て |
|---|-------------|---|--|
| 1 | 1 2 | <p>知 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることなどを理解している。（○）</p> <p>発 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして想像したことを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。（○）</p> <p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。（○）</p> | <p>【行動・ワークシートの記述の点検】 C：様々な視点を投げかけ、そのものを何かに見立てたり、そのものについてどう思うかなどを問いかけたりする。</p> <p>【行動・ワークシートの記述の点検】 C：そのものの形や色彩の特徴を問いかけ、そこから何かに見立てたり、どう感じるかを考えさせたりして、主題を生み出すように促す。</p> <p>【行動・ワークシートの記述の点検】 C：「○○が…だったらおもしろい」かを問いかけ、発想する楽しさを味わえるようにする。</p> |
| 2 | 3 7 | <p>知 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることなどを理解している。（○○）</p> <p>技 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表したり、材料や用具の特性などから制作の順序などを考えたりしながら、見通しをもって表している。（○○）</p> <p>発 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして想像したことを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。（○○）</p> <p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。（○○）</p> | <p>【行動・ワークシートの記述の確認】 【ワークシートの記述・作品の分析】 C：様々な視点を投げかけ、そのものを何かに見立てたり、そのものについてどう思うかなどを問いかけたりする。</p> <p>【行動・ワークシートの記述の確認】 【ワークシートの記述・作品の分析】 C：粘土に触らせながら、意図に応じて工夫して表せるように粘土ペラの使い方などを指導する。</p> <p>【行動・ワークシートの記述の確認】 【ワークシートの記述・作品の分析】 C：モチーフを何にするのか、身近なものから考えさせる。触覚などの感覚も使いながら考えるように促す。</p> <p>【行動・ワークシートの記述の確認】 【ワークシートの記述・作品の分析】 C：そのものをどのように捉えたのか、意図に応じてどのように制作するかなど、思考を促すような問いを投げかける。</p> |
| 3 | 8 | <p>知 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることなどを理解している。（○○）</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。（○○）</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（○○）</p> | <p>【ワークシートの記述の分析】 C：作品からどのようなイメージを感じたのかを形や色彩から考えさせる。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：作者がそのものの特徴をどう捉えて表現しているのかを考えさせる。</p> <p>【発言・ワークシートの記述の分析】 C：作品を見ながら、様々な捉え方があることに気付かせ、他者がどのような視点でものを捉えたのかを問いかける。</p> |

| 主たる学習活動 | 指導上の留意点 | 時 |
|--|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートを活用し、本題材の見通しをもつ。 ・身近なものの画像を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】 ものを様々な視点から捉え、感じ取ったことや考えたことを時間軸のあるアニメーションで表現する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された画像（動物、果物、文房具等）について、マインドマップなどの思考ツールを活用しながら様々な視点から捉える。 ・どのようにそのものを捉えたかを班で共有する。 ・ものを様々な視点から見ることには、どのような意味があるのかを考える。 ・A6の用紙を一人2枚使い、班でイメージアニメーションを体験する。 ・それぞれの班の動画をStreamで鑑賞する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの画像を見せ、一つの面からしか見えていないのではないかと問いかける。 ・身近なものを様々な視点から捉え、「○○が…だったらおもしろい」というように、身近なものから想像を膨らませ、普通では起こりえないことを時間軸のあるアニメーションで表現することを伝える。 ・そのものの形や色彩の特徴を基に、自分なりにそのものの他の面をマインドマップなどの思考ツールを使用して考えさせる。 ・同じものでも人によって様々な捉え方があることを確認させる。 ・今まで何気なく見てきた身近なものの見方を変えたことで、ものの見方にどのような変化があったかを考えさせる。スケッチの題材で問うた「ものの見方」について振り返らせる。 ・班で制作する。中央に○の描かれたA6の用紙を一人2枚ずつ配付する。「○が…だったらおもしろい」と問いかけ、○からイメージを膨らませるよう促す。 ・撮影はTPCのアプリケーションKOMAKOMAでさせる。 ・出来上がった作品はStreamにアップロードさせる。 | 1 2 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・イメージアニメーションのアイデアを考える。 ・油粘土や紙を用いながら、イメージアニメーションを制作する。 ・作品をStreamにアップロードする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵コンテを配布する。3時間目の終わりに絵コンテの画像をTeamsに提出させ、フィードバックを行う。 ・そのものの形や色彩の特徴を基にイメージを膨らませることを確認する。 ・コマ数は、最大99コマまでとする。 | 3 7 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・イメージアニメーションの上映会を行い、お互いの作品を鑑賞する。 ・これまでの活動を通して、議論的な問いについて考え、交流しながら自分の考えを深める。 ・これまで書き溜めてきた毎時間の振り返りを見て、本題材における教科としての学びと、社会とのつながりの中で活用される汎用的なスキルの獲得状況について振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさを感じ取り作ながら、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えさせる。 ・自分や他者との対話を通して、自分としての価値をつくり出していけるように促す。 ・これまでの学習を振り返らせ、成長したところや課題点について客観的に考えさせ、生活や他の学習とつなげていけるように促す。 | 8 |

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

身近なものを様々な視点から見て、そのものの形や色彩の特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして想像したことなどを基に主題を生み出し、アニメーションを制作することを通して、発想することを楽しみながら、一人一人が自分なりにそのものの本質について考えている姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本題材では、身近なものを様々な視点から捉えられるよう、マインドマップなどの思考ツールを活用する。また造形的な特徴を基に、何かに見立てたり、そのものからどのようなことを感じるかなどを考えたりするように促す。評価は、ワークシートの記述や制作の段階と完成作品から知識・技能を一体的に評価する。なお、本題材ではアニメーションの編集技能は評価せず、技能よりも思考・判断・表現に重きを置くこととする。鑑賞においては、ワークシートの記述から知識を活用しながら鑑賞できているかを分析する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

アイデアを練る際には、TPCを用いて身近なものを調べながら形や色彩の特徴などを基に主題を生み出させると共に、よりイメージが湧くように実物のモチーフも何点か用意しておく。目に見えることだけではなく、触覚などの感覚も使いながら発想するように促す。鑑賞では、作者がそのものの特徴をどう捉え、どう表現しているのかを考えさせる。評価は、絵コンテの段階でTeamsに提出させてフィードバックを行い、暫定的に評価し、生徒が次の学習活動に向けて思考を深められるようにする。最終的には、制作途中の作品と授業外でコンセプト用紙や完成作品と併せて評価する。鑑賞においては、「作品を見て感じたよさや美しさ」と「作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えたこと」を分けて考えられるようワークシートを作成した。評価については知識を使いながら鑑賞できているかどうかをワークシートの記述から評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

授業の導入部分で、ものの見方についての問いを投げかけたり、他者のものの見方に触れさせたりすることで、イメージすることの面白さを感じさせたい。また、制作した動画をStreamにアップロードさせ、他者の様々なものの見方にいつでも触れられるようにしておく。評価は、活動の様子と生徒がこれまで書き溜めてきた振り返りを客観的に見てまとめたもの、作品などから総合的に評価する。

○生徒自身が「学習と成果」を実感できるプロセス

振り返りはClass Notebookで行い、クラス全員のその日の振り返りを見られるようにし、他の生徒の振り返りから自分が感じている困り感を解決する糸口を見つけたり、振り返りに対する教師のコメントや、ポイントに付けられたマーカー箇所を確認したりすることで、自分の学習の成果と課題を実感できるようにする。

【本題材での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。（A表現(1)ア(ア)）
- ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。（A表現(2)ア(ア)）
- ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。（A表現(2)ア(イ)）
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。（B鑑賞(1)ア(ア)）
- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。（共通事項(1)ア）
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。（共通事項(1)イ）

【本題材における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・対象や事象を**多面的・多角的に見る**ことは、TOFYの探究活動において情報を整理・分析する上で役立つと考えられる。また、自分なりにそのものの本質を捉えて**抽象化**していくことは、TOFYの課題を考察する上で必要になると考えられる。